

土砂防だより



雪の茶畑（富士宮市）

年頭の御挨拶	2
2004年しずおかの砂防10大ニュース	
平成17年度政府予算案閣議決定	3
全国治水砂防促進大会	
市町村等砂防担当職員研修	4
由比地区直轄地すべり対策事業要望	5
シリーズミニ講座③「区域設定と説明会」	
台風22号等による土砂災害発生状況と対策	6
インフォメーション	8
石碑を訪ねて	11
募集・お知らせ	12

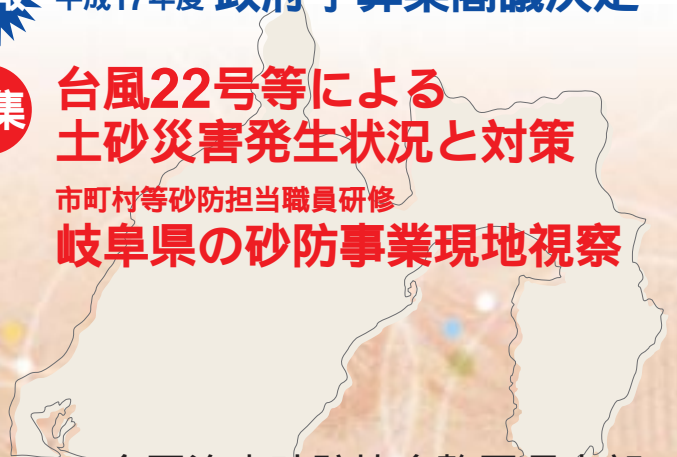


平成17年度 政府予算案閣議決定



台風22号等による
土砂災害発生状況と対策

市町村等砂防担当職員研修
岐阜県の砂防事業現地視察



年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 石川 嘉延

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日ごろから当協会支部に対し御理解と御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、観測史上最多の10個の台風が日本に上陸し、新潟県中越地震が発生するなど、日本全土に多くの自然災害をもたらした年でありました。本県でも、台風22号の直撃などにより通年の3倍近い99件もの土砂災害が発生し、県内各地に甚大な被害をもたらされ、砂防関係事業の必要性が再認識された年でありました。

今年は、市町村合併により県内でも新11市町が誕生する予定で、新しい市町の枠組みとしての活動が本格化いたしますが、引き続き土砂災害防止法に基づく区域指定を進め、砂防えん堤の整備などを効率的に推進するとともに、警戒避難体制の整備を図るなど、合併による広域化により行政サービスが低下しないよう各市町と連携しながら、土砂災害対策を更に推進し、県民の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

また、本年は新たに「富国有徳」の理念を実現する手段としての「創知協働」をスローガンとして掲げ、土砂災害対策についても、地域の皆様の御協力を得て、静岡県の砂防事業が着実に推進されるよう努力してまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭の御挨拶といたします。

2004年 しずおかの砂防 10 大ニュース

- | | | | |
|---|---|----|---|
| 1 | 台風22号、静岡豪雨など土砂災害が多発!(99件)
10月9日、台風22号が伊豆半島に上陸。伊東市などを中心に52件の土砂災害が発生し、伊豆市では1名の方が土砂災害の犠牲となりました。また、6月30日には静岡市南部を中心に時間88ミリの集中豪雨が発生し、湛水被害、土砂災害などが発生しました。 | 2 | 土砂災害防止法の本県初の指定が全国で2県目
5月28日、静岡市大和田の2地区で「土砂災害警戒区域」を指定しました。これは、広島県に続き2番目の指定県となるものです。 |
| 3 | 平成17年度予算で
由比地区直轄地すべり対策事業の新規着手
12月24日、平成17年度の政府予算案が閣議決定され、由比地区における直轄地すべり対策事業の新規着手が認められました。 | 4 | 平成16年災害関連緊急事業の申請
6月の豪雨や台風22号などにより、99件の土砂災害が発生し、13箇所ですべて災害関連緊急事業約15億円を申請しました。 |
| 5 | 斉藤滋と史前支部長に(社)全国治水砂防協会より
感謝状の贈呈
5月12日、平成16年度全国治水砂防協会通常総会において、綿貫会長より本県の斉藤滋と史前支部長へ、長年にわたる砂防事業推進への尽力に対し、感謝状が贈呈されました。 | 6 | 静岡県議会治山砂防議員連盟が現地視察
10月12日、治山砂防事業の推進により県民の安心安全な生活を目指す静岡県議会議員連盟の現地視察が、26名参加のもと、富士宮市で行なわれ、砂防・治山の重要性を再確認していただきました。 |
| 7 | 国際交流が活発に行われる
2月12～13日に国際協力事業団(JICA)の海外技術協力の一環としてイラン・イスラム共和国農業開発推進省の2名が、9月12日に台湾「日本の砂防と自然工法」調査団12名が、10月21～22日に台湾「坡地災害防治及生態工法研修」調査団24名が本県の砂防事業の視察・研修に訪問されました。 | 8 | 富士山ハザードマップが完成
平成12年10月から始まった富士山周辺の低周波地震を契機として、平成13年7月に「富士山火山防災協議会」が設立されました。その中に藤牧東大名誉教授を座長とする「富士山ハザードマップ検討委員会」が設置され、同マップが6月に完成しました。 |
| 9 | 木和田川砂防二号堰堤(登録文化財)の復旧完成
昨年7月の豪雨により流出した登録有形文化財である堰堤の災害復旧工事が、「木和田川砂防二号堰堤復旧検討委員会」の検討結果を踏まえ、(財)文化財建造物保存技術協会の指導のもとに完成しました。 | 10 | 新潟県中越地震で本県からも応援職員派遣
10月23日に発生した中越地震の復旧において、新潟県を応援するため11月24日～12月28日まで5次にわたり計20名の県土木技術職員が派遣されました。 |

平成17年度

政府予算案閣議決定

12月24日、国の平成17年度の政府予算案が閣議で決定されました。静岡県に関連した砂防関係事業の決定額、新規事項などは下記のとおりです。

河川局所管砂防関係事業予算内示額【国費】

(単位:百万円)

事 項	前年度予算額 (A)	17年度内示額 (B)	対前年度比 (B/A)
砂 防 事 業	140,076	132,286	0.94
地 す べ り 対 策 事 業	17,553	16,539	0.94
急 傾 斜 地 崩 壊 対 策 事 業 等	25,462	22,621	0.89
砂 防 関 係 事 業 計	183,091	171,446	0.94

注1)道路関連社会資本分、特定治水及び剰余金等を含む。
注3)計数は、整理の結果端数調整することがある。

注2)平成16年度予算は、平成17年度予算内示額との比較対照のため組替えをしている。
注4)上記の計数以外に、総合流域防災事業(統合補助金)の内数として砂防関係事業がある。

参考

総合流域防災事業(仮称)	73,294の内数	72,928の内数	(1.00)
--------------	-----------	-----------	--------

主な新規事項

- **由比地区における直轄地すべり対策事業の新規着手。**(P5参照)
- **総合流域防災事業(仮称)の創設**

流域単位を原則として、個々の事業規模が小さい等から個別箇所ごとの予算管理を行う必要性が低い事業について、水害・土砂災害対策の施設整備等(河川改修、土砂災害対策等)や、災害関連情報の提供等のソフト対策(情報基盤整備、土砂災害情報相互通報システム整備、砂防基礎調査等)に係わる補助を一括して行う。

国庫補助負担金の改革について

- **砂防関係事業の補助事業については、緊急的に実施すべき事業を除き、抑制。**
- **小規模補助金である砂防設備修繕費補助、地すべり防止施設修繕費補助を廃止。**
- **流域ごとに協議会を設置し、国と地方が連携を図りつつ地域的な水害・土砂災害対策を総合的に推進する総合流域防災事業(仮称)を創設。**

「全国治水砂防促進大会」開催される

10月12日、全国治水砂防促進大会が東京都千代田区の砂防会館で開催されました。当日は、全国から1500余名の会員が参集し、当支部からも32名のご出席をいただきました。

大会は、綿貫全国治水砂防協会長の挨拶に始まり、北側国土交通大臣からの祝辞に続いて、近藤国土交通省砂防部長から「砂防行政の動向について」、馬場新潟県栃尾市長、有塚福井県足羽郡美山町長による砂防関係事業の必要性を訴える意見発表が行われました。その後、大久保理事長による促進活動及び大会決議が発表され、満場一致で採択されました。

お忙しい中、ご出席をいただきました会員の皆様には心からお礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶

参加市町村

東伊豆町、河津町、伊東市、函南町、韮山町、小山町、富士宮市、静岡市、富士川町、蒲原町、由比町、島田市、金谷町、川根町、本川根町、御前崎市、相良町、榛原町、吉田町、掛川市、袋井市、菊川町、大東町、森町、豊岡村、春野町、龍山村、佐久間町、水窪町、湖西市、細江町、引佐町

市町村等砂防担当職員研修

岐阜県の砂防事業現地視察



11月24～25日、市町村等砂防担当職員研修会を開催し、21名の参加がありました。

この研修は、市町村等の職員の皆さんに砂防事業に関する知識・技術の習得、向上に資するためのもので、毎年開催しています。

研修初日は、砂防室職員が講師をつとめ研修会を開催、二日目は岐阜県砂防課の協力のもと岐阜県内の現地視察研修を行いました。



研修会風景

研修内容

- | | |
|--------|--|
| 11月24日 | 砂防に関する講義
土砂災害防止法について
砂防関係事業における市町村の役割について
7～10月の土砂災害の発生状況について
質疑応答 |
| 11月25日 | 現場研修
山切谷（郡上市白鳥町小駄良）
東内戸（郡上市大和町大間見）
河川環境楽園（各務原市川島笠田町） |

研修会では、加納砂防室長、八木砂防係長、水野傾斜地保全係長からそれぞれ砂防に関する講義がありました。その後、事前に参加者の皆さんから寄せられた質問についての回答があり、活発な意見交換がなされました。

二日目の現地研修では、岐阜県郡上建設事務所の阪田河川課長、今井砂防係長に案内を務めていただき有意義な視察となりました。

『9・15豪雨災害山切谷』災害関連緊急砂防事業 岐阜県郡上市白鳥町

平成11年9月14日から15日に降り続いた豪雨により、土石流が発生し、床上浸水5戸、床下浸水13戸の住宅被害及び死者1名の人的被害がありました。災害関連緊急砂防事業により本堤工、沈砂ダム工、砂溜工などの対策事業を行い、その後、奥美濃の桜守と呼ばれた白鳥町出身の故佐藤良二さんにちなみ「災害の教訓を忘れず、被災現場を桜で包み、地域の明るい憩いの場に」をテーマに記念植樹も行われたとのこと。



岐阜県担当者の説明を受ける

「東内戸」災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業 岐阜県郡上市大和町

平成14年の7月の台風7号による豪雨により、人家の裏山の斜面が崩壊し土砂が家屋に流入、倒木により屋根が破損しましたが、自主避難により人的被害にはあたりませんでした。これについて、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業により対策工事隣接する人家の保全のため災関フォローとして国庫補助事業で対策が行われています。



東内戸急傾斜地全景

参加者の声



災害復興記念碑の前で（山切谷）

豊田町 建設課主任 岸本忠史

今回で2回目の研修になり、普段から疑問に感じていた砂防えん堤の働きについて理解できたこと、土砂災害を防止することは現時点では不可能に近いので、地域住民に砂防事業の必要性を理解してもらう事と、土砂災害発生の子知及び警戒避難体制を整備する必要性等のソフト対策も充実していく必要があると現地視察をして再認識しました。

御前崎市 建設課主査 中島一裕

今回の砂防研修に参加し、施設整備状況やソフト対策、土砂災害危険地域の多さなど様々なことを学ぶ事ができました。また、土砂災害を防止するためには行政と住民の連携が大切であり、住民との協働により事業を進めていく必要があると感じました。今後も住民が安心して暮らせるように、砂防事業に力を注いでいく必要があると感じました。

県の12月補正予算可決

台風22号の砂防関係県単独事業 **85,000**千円認められる

今回の12月補正予算は、伊豆半島を中心に大きな被害をもたらした台風22号、23号等に係る災害復旧費など、災害対策に必要な経費が12月県議会で可決されました。

砂防関係では、砂防等災害関連緊急事業費に10億9,300万円、県単独事業(自然災害防止事業)費に8,500万円が補正されました。県単独事業は、台風22号で甚大な被害を受けた伊豆地域に限定し、二次災害の恐れがあり、早期に対策が必要な箇所に予算を投入します。

なお、県単独事業については、砂防関係だけに補正されました。

(単位:千円)

区 分	平成16年度 予算				H15最終予算 (B)	A/B (%)
	当初予算	9月補正額	12月補正額	合 計		
災害関連緊急事業	1,514,000	-	1,093,000	2,607,000	2,188,200	119.1
県 単 独 事 業	1,675,000	200,000	85,000	1,960,000	1,902,000	103.0

由比地区直轄地すべり対策事業新規箇所着手要望を行う



11月5日、静岡県は、日本の大動脈である重要交通施設(JR東海道本線・国道1号・東名高速道路及び情報通信網等)が集中している由比地区において、豪雨や東海地震等により大規模な地すべりが発生する恐れがあることから地すべり対策を促進するために、直轄地すべり対策事業が平成17年度に新規着手されるよう、国会議員、国土交通省、財務省へ要望を行いました。

当日は、櫻井土木部長から新規着手を求める石川知事の要望書を、関係者に直接手渡しました。

なお、同日に、「由比地すべり対策事業促進期成同盟会」(平成16年10月25日設立)も要望活動を行いました。

【シリーズ】土砂災害防止法・ミニ講座VOL.3

区域設定と説明会

前回の「基礎調査」の結果から、土砂災害警戒区域(イエローの区域)と土砂災害特別警戒区域(レッドの区域)を設定していきます。

基礎調査の結果、設定した区域については、土砂災害防止法に基づく法指定を県が進めていきますが、事前に県土木事務所が市町村と協力して、区域内の住民や地権者の皆様等に説明会を開催していきます。

説明会では、土砂災害防止法や区域の設定方法等について説明し、法指定についてご理解・ご協力をお願いしています。

今後も基礎調査の完了した箇所については、区域の皆様等に説明会を開催し、危険区域等をお知らせできるようにしていきたいと考えています。説明会の開催については通知等で連絡させていただきますので、皆様のご参加をお願い致します。

土砂災害から身を守り安全な地域づくりを目指して、皆様のご理解・ご協力をお願いします。



地元説明会の様子(三島市内)

台風22・23号による

土砂災害の発生状況と対策

10月9日に伊豆半島に上陸した台風22号と、その10日後の10月19日に県内に最接近した台風23号は県内の広範囲で土砂災害を引き起こし、その数は合計71箇所及びました。

台風22号では、伊豆市で死者1名、熱海市と戸田村で負傷者1名の人的被害が発生するなど、伊豆半島を中心に地すべり、がけ崩れにより全壊、半壊などの住宅被害が多発しました。またこれらの内、施設整備済の12箇所でも未だに土砂災害を防ぐことができ、砂防施設の効果が発揮されました。

市町村	台風22号							台風23号			
	人的被害			住宅被害				住宅被害			
	死亡	負傷者	小計	全壊	半壊	一部損壊	小計	全壊	半壊	一部損壊	小計
伊豆市	1	-	1	1	-	7	8	-	-	-	-
伊東市	-	-	-	2	-	5	7	-	-	-	-
下田市	-	-	-	-	-	4	4	-	-	-	-
熱海市	-	1	1	1	1	1	3	-	-	-	-
韭山町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
榛原町	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
戸田村	-	1	1	1	3	-	4	-	-	-	-
松崎町	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
西伊豆町	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-
計	1	2	3	7	5	18	30	-	-	1	1

凡例

- | | |
|--------|--------|
| 台風22号 | 台風23号 |
| ● がけ崩れ | ■ がけ崩れ |
| ● 土石流 | ■ 土石流 |
| ● 地すべり | ■ 地すべり |

年間では...

平成16年 土砂災害発生箇所数

	台風22号	台風23号	左記以外	計	被害を防いだ箇所数
土石流	7	-	6	13	2
地すべり	5	1	2	8	-
がけ崩れ	40	18	20	78	15
計	52	19	28	99	17

平成16年度 災害関連緊急事業申請箇所一覧表

区分	市町村	箇所名	申請額(百万円)	事業内容
砂防	伊東市	宇佐美	225.0	堰堤工
		多賀地川右支川	123.0	堰堤工
		東小路沢	69.0	堰堤工
	戸田村	大浦洞沢	255.0	堰堤工
	相良町	海老江沢	54.0	堰堤工
小計			726.0	
地すべり	相良町	地頭方No.2	82.0	横ボーリング工 鋼管杭工
	掛川市	戸沢No.2	237.0	横ボーリング工 鋼管杭工
	森町	橘	213.0	集水井工 集水ボーリング工
	小計			532.0
急傾斜	下田市	中根石	70.8	擁壁工
	熱海市	伊豆山坂東	18.0	吹付法砕工
	伊豆市	小土肥出口	35.6	吹付法砕工
		小立野	26.9	擁壁工
	榛原町	勝俣新戸	84.5	吹付法砕工
	小計			235.8
計			1493.8	

橘地すべり以外は台風22号による災害

がけ崩れ



榛原町新戸

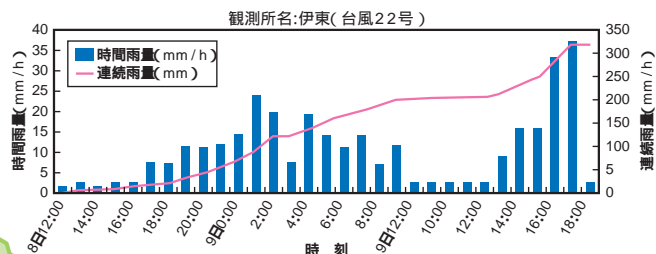
榛原町
がけ：2箇所
地すべり：1箇所



台風22号

中心気圧950hps、中心付近の最大風力40m/sの勢力を保った台風22号は、静岡県沿岸を北東方向に時速約60kmで通過し、平成16年10月9日の16時頃伊豆半島を横断しました。

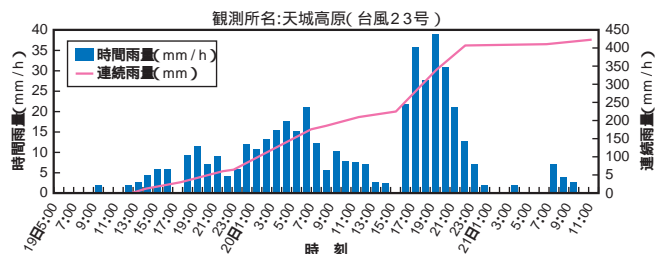
強風による人家の損壊なども含め、被害の大きかった伊東市では、降り始めからの連続雨量が324mmを記録し、また9日16時から17時に時間最大38mmを記録しました。



台風23号

超大型で強い勢力に発達し、広い暴風域を維持したまま、20日13時頃に高知県土佐清水市付近に上陸し、その後、近畿、中部、関東地方を通過し、関西を中心に日本各地に多大な被害をもたらしました。

県内で最も連続雨量が多かった天城高原観測所では、連続雨量411mm、最大時間雨量38mmを記録しました。



静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟が現地視察

平成16年10月12日に、豊かな生活環境の創造と安心して暮らせる社会基盤の整備を目標に、砂防事業の推進を目指す「静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟」が、富士山麓周辺の砂防事業等の現地視察を行いました。

今回の視察には会員70名のうち26名が参加し、富士山の火災崩れ対策、富士見小学校が「サポーター」として維持管理を協働で実施している弓沢川火山砂防事業などを視察しました。降雨により一部行程を変更せざるを得ませんでしたが、台風22号の直後でもあり、非常に興味を持って視察していただき、砂防・治山の重要性を再確認していただきました。

現地視察行程

新富士駅・富士駅集合

- 富士山大沢崩れ直轄火山砂防事業
- 西沢川地区森林水環境総合整備治山事業
- 弓沢川火山砂防事業
- 各駅解散



弓沢川火山砂防事業



富士山大沢崩れ扇状地上流にて

参加議員26名 (敬称略、順不同)

- | | | |
|------------|----------------|------------|
| 佃 弘巳(自民) | 野澤 義雄(平21) | 谷 卓宜(公明) |
| 込山 正秀(自民) | 赤堀佐代子(自民) | 山田 誠(自民) |
| 鈴木 利幸(自民) | 田島 秀雄(自民) | 篠原 太(自民) |
| 須藤 秀忠(自民) | 吉川 雄二(自民) | 伊藤 育子(自民) |
| 植田 徹(自民) | 菊地 初彦(自民) | 山村 利男(自民) |
| 奥之山 隆(自民) | 小長井由雄(平21) | 鈴木 洋佑(平21) |
| 岡本 信也(平21) | 林 芳久仁(平21) | 佐野 愛子(平21) |
| 前林孝一良(公明) | 阿部 時久(公明) | 蓮池 章平(公明) |
| 早川 育子(公明) | 松井 三郎(KEN-MIN) | |

第2回 由比地すべり対策検討委員会が開催される



委員会の様子

10月22日に、第2回由比地すべり対策検討委員会が開催されました。今年度から国の直轄地すべり対策調査(事業主体:国土交通省富士砂防事務所)に着手した由比町由比地区(サッタ山)において、豪雨や東海地震等により大規模な地すべりが発生するおそれがあることに鑑み、地すべり機構とその対策の基本的な方針について検討するため「由比地すべり対策検討委員会」を設立しました。

これまでに、第1回委員会では、地すべりの概要、既往調査結果を基に、地すべり対策の必要性及び当面の調査・観測方針について検討し、第2回委員会では、調査結果等を基に、地すべり機構と地すべり防止工事の基本的な方針・今後の調査及び観測計画について検討しました。

今後は、年度内に第3回委員会実施し、東海地震に対する基本的な考え方及び今後の課題を検討する予定です。

登録有形文化財 木和田川2号堰堤の復旧なる

登録有形文化財(文化庁)にも指定されている木和田川2号堰堤(大正元年完成)は、昨年の7月3~4日の梅雨前線豪雨により中央部が決壊してしまい、これまで周辺施設の復旧と合わせ工事を進めてきましたが、このほど完成しました。

2号堰堤は『つたの細道公園』整備事業(岡部町)と一体となった『砂防学習ゾーン』として整備し、地元のボランティア団体『横添ふるさと会』も施設の維持管理を行う一方、イベントの開催、施設の案内などを通じて地域の歴史の伝承に努めていただくなど、地域の方々に愛され、親しまれてきた砂防堰堤群の中心的な施設でした。

県では、「木和田川砂防2号堰堤復旧検討委員会」を設置し、(財)文化財建造物保存技術協会に指導を受けながら、復旧工事を進めてきました。完成後間もないため、かつての風格までは戻っていませんが、近いうちに回復することとされます。



被災前



被災直後



復旧後

第1回 富士山広域防災会議・火山共生ワーキング開催される



会議の様子

11月25日に、東京都三田共用会議所において「第1回富士山火山広域防災検討会」が開催されました。この会議は6月に「第3回富士山火山防災協議会」において新設が決定されたもので、10月に予定されていましたが、新潟県中越地震により延期されていました。

検討会の目的は、富士山の火山防災対策を広域に捉え、富士山火山防災協議会の検討結果をさらに進め、防災体制のあり方を具体的に検討することです。富士山火山共生ワーキングも同時開催され、今年度末を目途に、後2回開催し、結論を目指す予定となっています。座長は東京大学の廣井教授で、委員は学識者として火山学者、砂防学会から池谷理事が参加し、行政としては、内閣府を中心に国土交通省砂防部からは亀江砂防計画課長の他、本県からは防災局長が参加しています。また、ワーキングには関係部局長3名が参加しています。

平成16年度 砂防治山連絡会議開催される

12月17日に、砂防及び治山関係の国の地方局及び直轄事務所と県の担当者が参集し、静岡県砂防治山連絡会議を静岡県総合研修所もくせい会館で開催しました。

この会議は、砂防・治山の両事業の重複を避け、効率的な事業を相互に実施することを目的に、毎年この時期に開催し、両事業について連絡調整を緊密に行っています。総括打合せの後、個別打合せとして各機関における来年度以降予定されている事業について説明を行い、今後の進め方について調整を行いました。



連絡会議の様子

長野県砂防協会が県内現地視察



木和田川環境砂防事業の説明を受ける参加者

11月12日に、長野治水砂防協会の県外視察団が本県を訪れました。長野県の治水砂防協会は会員が多いため、地区別に行事を行っているということで、今回来静されたのは、戸隠村村長を会長とする信濃川水系裾花川流域に属する市町村の会員20名の方々と、砂防事業と環境保全の関わりというテーマで、登録有形文化財の「木和田川環境砂防事業」を視察されました。2号堰堤の災害復旧工事の他、溪流沿いの散策を楽しむ時間もあり、環境のよさを満喫されました。

砂防室から新潟県中越地震被災地へ応援派遣

新潟中越地震からの復興のため、新潟県からの要請を受け、静岡県も11月24日から12月28日まで1週間交代の5班編成で、土木職員を小千谷市に派遣することになりました。第1陣で派遣することになった砂防室職員等は、11月24日朝7時に公用車で静岡を出発し、長野自動車道経由で400kmの道程を6時間半掛けて走行し、午後1時30分に新潟県小千谷維持管理事務所に着きました。地震発生から1ヶ月経過していたこともあり、小千谷市内は仮復旧が進み、一般車両が通行出来るようになっており、水道も1週間前に復旧したとのことで、通常の生活に戻りつつある状況でした。

現地では要請された業務内容は、道路災害の査定設計書の作成で、被災箇所の調査結果により測量業者が作成した現況横断図と写真を基に図面に構造物を刻み、工事費を積算しました。期限内に少しでも多くの設計書を完成させるため、現場を見に行く時間もなかなか割けない状況でした。用意された会議室では、既に7県から派遣された職員の方々が業務にあたり、図面を開くスペースが無い程でした。

12月1日には小千谷維持管理事務所を離れることになり、事務所の方にテレビ中継された被害の大きな現場を幾つか見せて頂き、今まで見たことの無い迫力ある光景に圧倒されました。そして自然の前では人間は、いかに無力かということを感じました。



小千谷維持管理事務所内の様子



小千谷市内調査状況



小千谷市被災状況



長岡市妙見男児救出現場



台湾「坡地災害防治及生態工法研修」調査団が来静



静岡県の砂防についての説明会

本県では、県地震防災センター、「木和田川の兜堰堤の災害復旧」及び、「由比地すべり管理センター(森林保全室所管)」の視察を行いました。今回は、現場視察に加え、地方行政に携わる者同士ということで、会議形式で、お互いの行政システムや文化の比較などについて積極的な質疑を行いました。加納砂防室長の説明に、参加者は熱心に質問するなど有意義な意見交換となりました。

10月28～29日に、台湾「坡地災害防治及生態工法研修」調査団の一行25名が来静されました。これは(社)全国治水砂防協会が国際交流事業の一環として、台湾との技術交流を行っているもので、9月に台湾政府の調査団が来静したことは10月号でお伝えしましたが、10月末には、地方行政研習中心・黄政雄主任秘書を団長とする台湾の地方自治体職員一行24名が「山地斜面災害防止と生態工法」をテーマに来日されました。10月24日～30日にかけて、東京での研修、神奈川県、静岡県で現地研修を行いました。

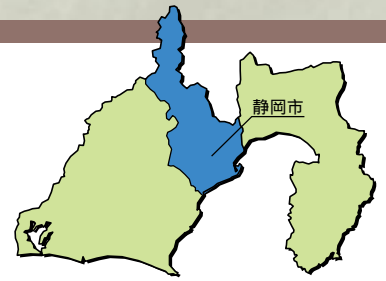


地震防災センターで説明を受ける参加者の皆さん

石碑

をたずねて
vol.3

今回は、「まちを守って60年」砂防記念碑です。これは、静岡市の安倍川で国の砂防事業が始まって60年になるのを記念し、幸田文が上流部の大谷崩を題材にし「婦人の友」に発表した「崩れ」の文章を彫った文学碑を、国土交通省（当時の建設省）静岡河川事務所などでつくる「安倍川砂防の遺暦を祝う会」が建立したものです。



碑文表面

「崩壊は、憚ることなくその陽ひの風のもとに、皮のむけ崩れた肌をさらして、凝然と、こちらの向きに静まっていた。無惨であり、近づきたい畏怖があり、しかもいうにいわれぬ悲愁感が沈殿していた。

碑文裏面

幸田文「崩れ」文学碑由来

芸術院会員幸田文先生は、安倍川上流部の大谷崩れに関心を持たれ、昭和51年この地を見聞され、その感慨を「婦人の友」に「崩れ」として発表された。碑文はその「崩れ」から抄出したものである。

建設省直轄砂防事業工事着手以来60年を記念し、この碑を建立するものである。

平成9年9月吉日 安倍川砂防の遺暦を祝う会



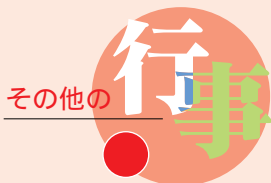
【交通機関】

- 静岡鉄道バス
安倍線「新田」下車
徒歩1時間30分(6km)
- 車
静岡駅から1時間15分
但し12月上旬～3月上旬
は山の中は路面凍結の
可能性あり

- 名 称 …… 「まちを守って60年」砂防記念碑
- 所 在 地 …… 静岡市梅ヶ島大谷崩
- 建立年月日 …… 平成9年
- 建 立 者 …… 安倍川砂防の遺暦を祝う会
- 河 川 名 …… 安倍川

この碑は、安倍川流域で見つかった約2メートル四方の石が利用されており、碑の近くには市立梅ヶ島小学校の児童たちの手形が入ったモニュメント「大地に刻む僕らの未来」も設置されています。

古くは金山として栄えた安倍川の源流には、日本三大崩れの一つに数えられる「大谷崩」があります。大谷崩は、宝永4年(1707)の大地震により崩壊したもので、水平面積1.8km²、高度800mであり、崩壊土砂量は約1億2千万m³(東京ドーム100杯分)と推定されます。周辺流域は平均年間降雨量3,000mmを超える多雨地帯であるため、一度豪雨に見舞われると土石流が下流の住民の生活を脅かします。そのため、山腹崩壊の著しい大谷川流域などの上流域や土石流危険渓流において、砂防堰堤をはじめ床固工、山腹緑化工等により土砂災害を未然に防ぐ対策が行われています。

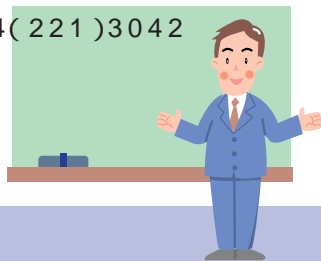


その他の 行事	平成16年	10月	6日	砂防研究報告会(東京都)
			13日	全国砂防課長会議(東京都)
			13～15日	地すべり現地討論会(鹿児島県)
			20～21日	砂防学会シンポジウム(仙台市)
			27日	第2回東海4県土砂災害防止法担当者会議(県庁)
	11月	18日		日本と台湾の砂防技術交流15周年記念講演会(東京都)(社)全国治水砂防協会主催
		29日		全国がけ崩れ対策協議会担当者会議(東京都)
		30日		全国治水砂防協会参与会、砂防ボランティア全国連絡協議会(東京都)
	12月	21日		口坂本地すべり基本計画検討委員会現地視察会

お知らせコーナー

「第45回 砂防および地すべり防止講習会」開催

- 【日 時】 平成17年3月10日(木)～11日(金)
【会 場】 砂防会館別館1階「利根」
【内 容】 危機管理体制の構築、火山防災マップ、土砂災害とその対応・警戒避難、公共事業と会計検査等
【対 象】 砂防および地すべり対策業務を担当する中堅職員
【参加費】 5,000円
【主 催】 社全国治水砂防協会
【問合せ先】 全国治水砂防協会静岡県支部
TEL 054(221)3042



2006砂防カレンダー 現場周辺の山・谷・川の写真コンテスト

- 【テ ー マ】 砂防関係工事(砂防堰堤工事、地すべり、がけ崩れ対策工事など)現場や現場周辺の山、溪流、花、動物などを題材としたもの
【応募資格】 制限はありません
【サ イ ズ】 カラー写真で四切サイズ(四切ワイドを含む)
【締 切 り】 冬の写真(平成17年3月31日消印有効)
春の写真(平成17年6月30日消印有効)
【問合せ先】 NPO法人砂防広報センター
〒105-0004
東京都港区新橋6-13-1
TEL 03(3459)1591
<http://www.sabopc.or.jp/>



平成17年 1-5
砂防関係の

主な行事

支部行事予定

- 1月27日 静岡県砂防ボランティア協会総会
5月30日 静岡県支部通常総会(予定)

協会本部行事予定

- 3月10～11日 砂防および地すべり防止講習会(砂防会館)
5月18日 平成17年度通常総会(砂防会館)

【表紙写真】



雪の茶畑 富士宮市
佐野 正明さん(富士宮市)

砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております! 皆様の御協力をお願い申し上げます。詳しくは下記宛に問合せ下さい。

編・集・後・記

明けましておめでとうございます。
昨年は、中越地震、過去最多の台風の台陸、集中豪雨などにより尊い人命や財産が奪われました。
今年は穏やかな一年になりますようにお祈り申し上げます。
本年も、砂防だよりをご愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。

砂防だよりは砂防室ホームページでもご覧いただけます。HPアドレス：<http://doboku.pref.shizuoka.jp/sabou/index.html>

砂防だより

第148号 発行日：平成17年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会 静岡県支部

〒420-8601 静岡市追手町9番6号 静岡県土木部河川砂防総室砂防室内
TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。